

氏名	山 本 道 法
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3359号
学位授与の日付	平成11年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	The results of radiotherapy for T1 glottic cancers: Influence of radiation beam energy (T1声門癌の放射線治療成績-局所制御率における放射線 エネルギーの影響-)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 岡田 茂 教授 清水 信義

学位論文内容の要旨

T1声門癌に対する放射線治療成績に影響を与える様々な要因を検討した。対象は1985年から1994年までの間に放射線治療がおこなわれた60人で、その内7人はテレコバルトにて、他の53人はリニアックにて治療された(26人-3MV、10人-6MV、17人-10MV)。総線量は56Gyから70Gy(平均61Gy)で51人(85%)は60Gyであった。

局所制御率に影響を与えた因子は、放射線エネルギーの違いと腫瘍の前交連への浸潤の有無であった。10MVリニアックにて治療された患者の局所制御率は71%、6MVでは56%、3MVまたはテレコバルトでは97%であり、3MVまたはテレコバルトにて治療された患者の局所制御率は、10MVまたは6MVで治療された患者の局所制御率にくらべて有意に良好であった。また、肉眼的に前交連に浸潤している腫瘍を持つ患者の局所制御率は43%であり、浸潤のない場合は88%で、前交連に浸潤している腫瘍を持つ患者の局所制御率は有意に悪かった。

T1声門癌に対する放射線治療をおこなう場合には低エネルギーの放射線をもちいることが望ましいと思われた。特に、肉眼的に前交連に浸潤している腫瘍を持つ患者では注意を要すると思われる。

論文審査結果の要旨

本研究はT1声門癌に対する放射線治療成績に影響を与える様々な要因を検討したものである。1985年から94年の間に放射線治療を行った60人を対象として、局所制御率に影響を与えた因子を検討した。その結果、10MVリニアックにて治療された患者の局所制御率は71%、6MVでは56%、3MVまたはテレコバルトでは97%であり、3MVまたはテレコバルトにて治療された患者の局所制御率は、10MVまたは6MVで治療された患者の局所制御率にくらべて良好であった。また、肉眼的に前交連に浸潤している腫瘍を持つ患者の局所制御率は43%であり、浸潤のない場合は88%で、前交連に浸潤している腫瘍を持つ患者の局所制御率は有意に悪かった。T1声門癌に対する放射線治療をおこなう場合には低エネルギーの放射線をもちいることが望ましいとする結果だが、特に今回の研究より、6MVのリニアックに治療を行うのであれば総線量の増加を必要とすることが示唆されたことは新しい知見と認められる。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があるものと認められる。